

II 粒子線治療の現状と展望

● 開設予定施設からの報告

1. 九州国際重粒子線がん治療センター：SAGA HIMAT

工藤 祥 九州国際重粒子線がん治療センター センター長
<http://www.saga-himat.jp/>

設立の背景と経緯

九州・山口地域はがん死亡率が高く、特に佐賀県は長期にわたり肝臓がん死亡率が全国一である。この現状をなんとかしよう、そして、この地域に高度の医療を提供したいという2007年の佐賀県からの呼びかけに、かねてより粒子線治療施設を切望し勉強会を重ねてきた医療界(学

界)と、社会貢献を果たそうという産業界とが応ずるかたちで、北部九州の産・学・官協同プロジェクトとして九州国際重粒子線がん治療センター事業が始まり、2010年1月に事業計画がまとまった。建物管理の特別目的会社である九州重粒子線施設管理(株)とともに、公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団(佐賀県と佐賀県医師会により設立、産・学・官の代表で評議員会・理事会を構成

が設立され、その財団が運営するクリニックとして、日本で4番目の重粒子線がん治療施設となる九州国際重粒子線がん治療センター〔Saga Heavy Ion Accelerator in Tosu: SAGA HIMAT (サガハイマツト)〕が、九州新幹線と長崎本線の交差するJR新鳥栖駅前に2011年初頭に着工、2012年末に建屋が完成し、装置の試験が始まった(図1~5)。

運営組織と体制

産・学・官協同事業の官については、佐賀県が計画推進の主体となり、人的



図1 九州の交通網とSAGA HIMAT
 SAGA HIMATのある佐賀県鳥栖市は、北部九州の交通の要衝で、鉄道と高速道路それぞれのクロス・ポイントである。



図2 新鳥栖駅とSAGA HIMAT
 SAGA HIMAT(↓)は、九州新幹線と長崎本線の交差するJR新鳥栖駅(↓)から徒歩約2分と至便である。

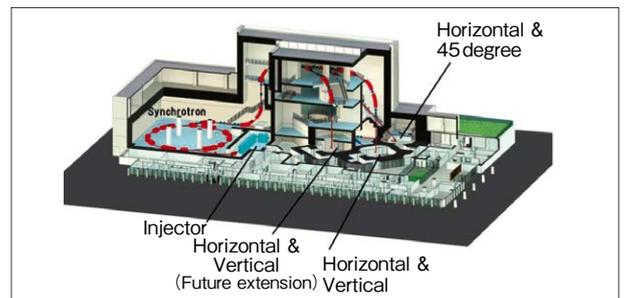


図3 SAGA HIMATの内部構造
 建屋1階フロアは約90m×54m、シンクロトロンは直径約20m。病棟はなく、加速器室、ビーム移送システム、および治療室が大きなスペースを占める。